

# 金銭感覚授業で磨く

## 沖工高でNPOが実施

沖縄工業高校で8日、高校生に金銭感覚を身に付けてもらうための特設授業が開かれ、生徒が一人暮らしに必要な生活費を予想したり、就労形態によって変わる収入や自由な時間の違いを考えたりした。特定非営利活動法人「キャリア・サポート・ネット・おきなわ」による出前授業。講師の船津ヒクトルさんは「進路を決める時は、10年、20年後のことも視野に働き方や給与の支給形態を考えることが必要」と呼び掛けた。



金銭感覚を身に付けるための授業で、将来の収入や働き方について考える生徒たち＝8日、沖縄工業高校

## 将来の働き方考える狙いも

授業を受けたのは、同校生活情報科の2年生33人。授業では、生徒が職業や就労先での身分、月収などが書かれたカードを引いて、自由になる時間と比べて満足度を検討。その後は、年齢や住まい、家族の有無によって、満足度がどう変わるかを考えた。

仲村明さんは、月収100万円、1日の遊べる時間7時間との設定で、「とても、とても満足」だったが、将来の設定は40歳で住居は賃貸マンション、独身で子どもなしとなり、感想は「心から、悲しい」だった。

また、嘉数成美さんは、時給制のコンビニ店員で月収は15万円、1日の遊べる時間は8時間との設定。将来の設定は32歳で実家住まい、結婚して子どもが1人となり、感想は「まあまあ満足」。「実家でお金もかからないし、どんなの移ぎに期待する」と話した。

講師の船津さんは「正社員になると収入は安定するが、自分の希望や自由な時間は制限される。派遣やアルバイトなら希望や時間に融通がきくが、収入は不安定になる」と説明。また出費の際は、本当に自

進路を「よーく」考えて掛けた。担当の田仲真理教諭は「始めから派遣やフリーターを否定せず、将来の働き方を考え、進路を選ぶ際の参考にしたい」と記した。生徒からは「今後には生活でどうお金を使うか真剣に考えたい」「自分の金銭感覚が少しおかしいことに気付いた」「将来のことをリアルに考えた」などと感想を記した。